

# ホーム・ルームと全入制クラブ活動の指導

## 指 導 部

### I はじめに

一昨年来、積極的にとり組んできた本校における校風改善の動きは、年次を追って見れば一応次の三段階に要約できる。

- (1) 初年度は集団指導を強化することを中心に、「消極的自由から積極的自由へ」というスローガンのもとに、主として学校（教官）及び生徒会執行部のリーダーシップのもとに学校ムードの全体的な改善運動が行われた。
- (2) 第二年度は、初年度の成果と欠陥をふまえて、校風改善の基礎をホーム・ルームの指導におき、特に学校の中堅として第二学年の指導に重点が置かれた。
- (3) 第三年度として、本年は先の実践をもとに、特に「まとまりのあるホーム・ルームと全入制クラブ活動の指導」をめざしている。

所でこのような課題をえらんだ理由は、昨年度の実践と研究の中から出て来た問題点から導かれた。その点を要約すると、「当初の目標としてあげた校風改善のためのホーム・ルーム指導の趣旨に則して校風までが一新されたという点になるとかなり疑わしい。「従来かなり不統一であったホーム・ルーム（学級）の指導に一応のまとまりができたが、なお学年段階に則した指導の欠陥と問題が残っている。」という指摘がある。その中で学年の指導について、二つの問題があげられている。

一つは、「高1という学年は毎年問題の学年とされ、学校の動きに対して批判的な傾向がよくなるかわれる。高1の指導には年令的発達段階による問題の処理を考え、……適切なガイダンス、担任による特別の指導、配慮が望まれる」。今一つは、高3の場合、「いかにして受験の重圧に耐えていくか」という課題を中心に、ホーム・ルームの運営、指導がすすめられてきた。しかし、その成果は今後に出てくる問題であろう。」とされている。

以上の反省から、今年は「ホーム・ルームの指導」については、高1及び高3を特に指導の対象として重点をおいた。全入制クラブ活動の指導については一昨年来、学校ムードの改善過程の一環として、ク

ラブ活動の重視強化の問題をとりあげてきたが、その動きを背景に、他方では本年度からの高校新教育課程移行に伴う特別教育活動強化の問題と併せて、高1・2年生のクラブ活動全入制を指導している。この間の指導過程と現状の問題点を明らかにすると、これが第二の課題である。

### II 本年度の指導の基本的原則と指導組織

本年度の生徒指導をどのようにすすめるべきかという点で、昨年度から指導部会議、研究会議、担任会議、教官会議と屢々とりあげられた。たまたま本校が、4月初めに東山の名大構内に高校のみ新築移転の運びとなり、学校として大きな喜びであったが、同時に別の意味の新しい問題の発生が予想された。即ち多くの大学学部及び大学生に囲まれて、高校としての教育の独自性、生徒指導のけじめをつける必要性が痛感された。

会議や話し合いの中から出された問題は多岐にわたるが、指導の体制は次のようにまとめられる。

#### (1) 指導の原則

- イ 高校生として責任のある行動—特に大学生との指導の区別、けじめをつける。生徒に自分で処理できる線をはっきりさせると共に、自分の行動については責任をとらせる。
- ロ まとまりのある学級、学校—小規模な学校にあって、学校としてのムードを高めるにはたくましさをもったまとまりと、集団としての統制のある行動力を身につけさせることが特に重要である。
- ハ 躰の指導—生活のよい習慣をきびしく身につけさせ、集団生活の規律を強く指導する。（この点は一昨年来の指導方針を確認して、いっそう発展させる。）
- ホ 積極的自由をのばす—躰や集団としての規律を強化すると同時に、生徒の中から盛り上がる—特に生徒会等から出てくる要求を十分にとりあげる。

#### (2) 指導の組織

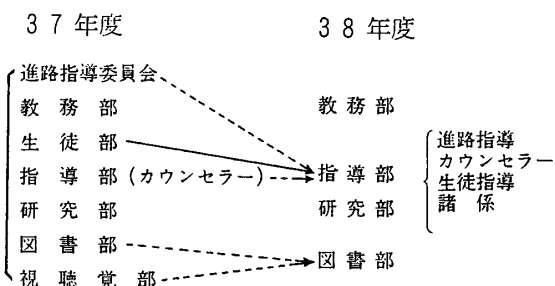
- イ 中、高指導体制の分裂を防ぐこと。

本校は中、高一体の指導組織をもっているが、昨年は指導の仕方、指導の場（例えば集会等）を

中、高区別して考えるべきだとの意見が担任会議等で出されていた。しかし、たまたま本年度は高校の移転に伴って、中、高校舎分離の形をとらざるを得なくなり、中、高指導の区別を強調し過ぎることは学校運営の不統一ともなりかねないので、特に指導部（旧生徒部）を統合強化して、指導部長の中に、中、高各学年より1名の学級担任が集って指導部の主要メンバーを構成している。

ロ 進路指導委員会及びカウンセラーを指導部内に統合し、教官相互の連絡を密にする。

指導の組織図



(3) 学年別指導の重点

- 第1学年 まとまりのある学級づくり。学習へのねばり。クラブ活動への積極的参加。L・Tホーム・ルームの計画化とグループ活動の強化
- 第2学年 学校の中堅として、生徒会活動の推進力。クラブ活動の中心。学習へのファイトとねばり。
- 第3学年 「受験の重圧に耐えて」目標への頑張り、「孤立と分裂をさけて」まとまりのある学級、協力とよい意味の競争、集団の規律とけじめ。

Ⅲ 指導の経過

1. 以上の指導の方針と体制の下で行われた実践の経過を主な項目を追って表にすると次のようになる。

(別表I)

月	行 事	指導の重点	生徒会, クラブ活動関係	指導部関係, 集会, 事件, 指導
4月	高校移転作業 (3~4) 6. 入学式 8. 始業式	・・・新しい校舎で規律のある生活	生徒会(ゼロからの再出発)としての進路 11. 生徒会役員選挙 18. クラブ活動内容の説明会(各クラブ長) 25. 対外試合の報告 ・クラブ加入者調査	10. 消火栓破損事件 12. 設備, 器具の利用について注意 18. クラブ顧問教官発表とクラブ活動の説明 24. スリッパの統一 ・クラブ顧問会議
5月	1. 開学記念日 2. 実力テスト 学年別遠足 中間テスト	・・・生徒の担任の実態把握	・新聞報道局の調査「施設, 設備等についての要望」 ・金沢委員会の成立 ・日程について執行部と学校側との話し合い	・大学食堂の利用について注意 ・クラブ調査とクラブ出席表作成 ・実力テスト成績発表をめぐる問題(高2, 3) ・高1セミ・実力テスト
6月	1. P・T・A総会 学年保護者会 3. 研究会議(付属教育10年の検討)	・・・クラブ活動の充実強化	6. 生徒会予算成立 16. ソフト・ボール大会 22. 生徒会代表金沢訪問	8. 高3盗難事件 10. 高3学年集会 13. 担任会議(生徒指導について) 20. 担任会議(H・Rの指導計画と実践の反省)
7月	期末テスト 20. 始業式	・・・金沢対抗戦関係	14. バレー・ボール大会 18. 小文化祭 クラブ合宿(21~) 29. 30. 金沢対抗戦	・クラブ顧問会議(合宿, クラブ情報交換, 強くなるクラブの指導) 4. 校風調査, H・R調査, クラブ調査
8月	高1林間学校 (1~5)	・・・クラブ活動の指導	・夏休み中のクラブ活動 ・高体連関係試合等	

ホーム・ルームと全入制クラブ活動の指導

9月	2. 2学期始業式 教育実習(他学部) (2~14)	学習の効率を高める まとものあるホーム・ルーム ↓ 行事を通して志気を高める ↓ 文化クラブの振興 ↓	12. L・Tホーム・ルームの運営と計画について(各クラス) ○室長会議(各クラスの情報交換と志気高揚の話し合い) 26. 後期生徒会, H・R役員選挙	○能研反対のピラ(愛私教組による生徒への働きかけ)
10月	4. 研究会議 高2 奈良見学(6, 7) 12. 体育祭 中間テスト 教育実習(教)		○体育祭応援練習 ○文化祭, ファイアー・ストーム ○歌唱練習(高3指導) ○文化委員会を中心とする文化祭の計画, 準備	○研究会議(能研問題)について ○能研反対のピラ(名大民青の生徒への働きかけ) 10. 高2, 3生徒と担任の能研についての話し合い
11月	文化祭(4, 5) 22. 遠足			

2. ホーム・ルームの指導例(高1, 3)

ホーム・ルームの指導については昨年来, L・Tの計画化を中心として指導が行われ, 高1, 2の実践例について, 昨年の紀要(第8集)にも詳しい報告

がある。今年は昨年の指導の反省から特に, 高1, 高3の指導例をとり上げたが, 4月以来, 10月までのホーム・ルーム指導の概要を表示すれば次のようになる。(別表II)

月	高1 ホーム・ルーム指導の例			高3 ホーム・ルーム指導の例		
	ホーム・ルーム活動	目標	指導	目標	ホーム・ルーム活動	指導
4月	11. 生徒会, クラス役員選挙 18. 新しい高校生活を迎えて 25. H・R活動の在り方とグループ編成	新しい規律のある生活 ↓	○校舎, 設備について ○教科と単位, 規則等の説明 ○班長会議(担任と各班長でL・T計画について話し合い)	新しい校舎での学級づくり ↓	11. 生徒会, H・R役員選挙 18. これからのH・Rの進め方について 25. 新しい校舎に移って(抱負, 責任, 不満)	○グループ別にL・Tの計画実施 ○3年生の自覚を促がす
5月	2. 高校生の学習 9. 遠足 16. こんな高校生活を送りたい 23. 友情について	ホーム・ルーム活動の充実 ↓	○班のクラス学習調査 壁新聞発行 ○付中以外からの進学者と担任の面接 ○高1にもセミ実力テスト	り ↓	2. ゼロからの再出発 9. 遠足 16. みんなで合唱しよう 23. 進路をめぐって(学年担任の話)	○実力テスト成績発表について ○大学紹介
6月	13. 高校生のエチケットについて 20. 音楽鑑賞 27. クラスの生活改善	クラブ積極的参加への加 ↓	○休み時間の利用 ○ソフト・ボール大会に勝とう ○担任の生徒個人面接(2週間)	進路の選択と ↓	13. みんなで歌おう 20. 人生, 進路について(杉山先生の話) 27. 受験勉強に強くなる法	○盗難事件について 高3学年集会 ○人生の中で現在の重要さ
7月	4. 生徒会活動について 18. 小文化祭(午前) 18. 1学期の反省と夏休みの生活	生徒会行事を盛り上げる ↓	○生徒会行事への協力と積極的参加 ○H・R調査, クラブ活動調査	意欲の向上 ↓	4. 音楽鑑賞 18. 1学期の反省と夏休みの学習	○生徒会行事への協力

8月	林間学校		○卑わい歌事件			
9月	12. 2学期のH・R活動についてグループ再編成 19. 学級の生活 26. 生徒会, クラス役員選挙	学習の効率を高める	○班長会議 ○学級アンケート調査 ○交友調査	孤立と分裂をさけて	12. 2学期のホーム・ルームの在り方 19. 2学期の勉強法 26. 役員選挙	○就職決定者と進学希望者との分裂を防ぐ
10月	3. 読書について 10. 体育祭にそなえて 17. レコード鑑賞 30. 規律について	運動にも強くなる	○応援の仕方 ○体育祭におけるクラスとしての団結を強調	三年生の意気を示す	10. 体育祭にそなえて	

3. 中間調査の結果と考察

先づ全体として、1学期の実践について、7月に行った校風調査、ホーム・ルームの調査から主な問題点をあげてみよう。

〔校風調査〕から

(1) 全校全体の雰囲気について (表1)

		学 年			
		1	2	3	全
イ	まとまりがあり, 活気がある。	28.6	32.1	25.6	28.9
ロ	まあよい方である。				
ハ	何ともいえない。普通	43.7	36.9	55.8	44.6
ニ	まとまりも活気もない。				
ホ	わるい	24.8	28.6	13.9	22.8
ヘ	無記				

全体としての評価は、(+)の評価(イ, ロ)と(-)の評価(ニ, ホ)が比較的接近しているが、学年別では高3に(-)の評価の比率が小さく、昨年来の当学年への指導の影響がかなりあると考えられる。この点は、後のホーム・ルーム調査にかなり明らかに認められる。

(2) 東山移転後の高校としての雰囲気

移転そのものは直接学校の雰囲気を変えるに至っていない。

(3) 移転後の学校生活については、① 設備等に不満が多くなっているのは建設途上としてむしろ当然の結果である。これについては、例えば自転車置場、クラブ室、運動場の整地等について強い要望があり、新聞報道局から「不満特集」(5月)が出されたりしたが、早急の解決は困難であった。② 学校の方針や生徒指導について、「やや不満」「不満」というのが全体の43%、特に高2については50%をこえている。この内容についてみると

「大学の食堂を利用させてくれない」「設備をこわすと始末書をとられる」等の移転後の管理の厳しさに対する不満が多くなっている。しかし、反面「もっと厳しく」といった内容も含まれている。高2については、実力テストの成績発表に対する不満(ショック?)が多い。

(4) 校風改善の成果について

全体として、ここ3年来の校風改善の成果をどう受けとめているかについて、昨年の調査と比較してみる。

(表2)

(問) 校風改善の成果は現在も引継がれ発展していると思いますか。	37年6月	38年7月
成果があがり、よくいっている。	22.5%	27.9%
大体よくいっている。		
何ともいえない。	33.0	54.1
やや悪くなった。		
全くだめになった。	36.0	7.1

3年来の校風改善の成果は一応引継がれているといえる。その内容については紀要7, 8集で詳しくふれているので、ここではとりあげないが、改善が個人にまで及び、全体として「校風の一新」さらに進んで「積極的自由に」まで発展しているかについては、なお多くの問題がある。

〔ホーム・ルーム調査から〕

(1) クラスのまとまり, 雰囲気 (表3)

		学 年			
		1	2	3	全
イ	よい				
ロ	まあよい方	50.5	20.4	58.2	42.2
ハ	何ともいえない。普通	24.8	35.0	30.3	30.0
ニ	やや不満				
ホ	わるい	19.0	44.6	5.8	24.1

高1, 高3については一応1学期間のホーム・ルーム指導の効果が認められよう。この表からは、高2の場合(+)の評価(イ, ロ)が低率で(-)の評価(ニ, ホ)が多くなっているのが注目される。このことは高1, 高3については、今年のホーム・ルーム指導の重点の一つとして「クラスのまとまり」がとりあげられてきたのに対して高2の場合、クラスの有効メンバーが生徒会執行部関係にぬけて、リーダーを中心とするまとまりに欠けた結果と(表4)考えられる。それに(高2〔ニ, ホ〕の内容)しても、従来この種の調査では、高2の場合、(+) (イ, ロ)の評価が他の学年よりも高率であったのにくらべて、新しい問題点と考えられよう。

自分勝手	16
まとまりがない	12
授業中ざわつき	6
だらけている	4
掃除をさぼる	2
その他	4
(103名中)	44

(2) L・Tの計画化と利用

(L・Tはうまく利用されているか) (表5)

(今年 38.7) (昨年 37.9)

年	1	2	3	全	全
イ 極めて有意義でよく活用している	40.0	15.5	29.1	28.2	0.6
ロ 何とかやっている	46.7	66.1	43.0	52.5	33.9
ハ あまりうまくいっていない	4.7	10.6	11.7	9.9	40.8
ニ 無意味、やめた方がよい	2.8	2.0	2.3	2.4	0.6

L・Tホーム・ルームの計画化については、昨年来かなり努力してきたが、本年は学年のはじめに各学年別の計画を立てて実施してきた。特に高1については、先にもふれたように、グループ制による班別担当をきめ、準備と進め方については担任がかなり強く指導を加えている。この結果、昨年にくらべて、L・Tの利用はかなり充実し、特に高1については(+)の評価(イ, ロ)が86.7%と高率になっている。ただここでも高2については(イ)の積極的な利用がやや低率であるが、これについては、2学期の初めに各学年について、計画立案上の留意点と計画表作成についての参考例を与え、かなりこまかく指導しているのので、今後の成果が期待される。

L・Tホーム・ルームの計画、実施に当って、1学期末の調査では高1はグループ制の希望が多く、高2はホーム・ルームの計画委員によって、高3は両者の折衷といった傾向がみられる。この

ことは、現状の反映であると同時に、今後、生徒の自主性と担任の指導性、学校としてのねらいをどう統一づけるかに問題がある。

Ⅲ 全入制クラブ活動の指導

学校としてクラブ全入制への指導は、まず生徒会の問題としてとり上げさせた。

- (1) この間、まず第1段階として、昨年9月、生徒会執行部は「クラブのあり方」と題して、詳しい調査報告書を作成し、生徒議会を中心に検討している。ここで、HR代表を通じて出てきた生徒の意見の主なものは
  - (イ) クラブの数が多すぎる。3年生が実質的に活動しないとしても、高1, 2年全員で200名程度である。この人数に対して現在クラブ数が20あり、1クラブ平均10人程度では、十分な活動ができないのではないか。
  - (ロ) 1人1クラブ制に徹底すべきだ。
  - (ハ) 入部が形式的で全々活動しないものがある。
  - (ニ) 体育系クラブの比重が文化系クラブのものより大きい。
  - (ホ) 2年生の後期まで全員やるべきだ。
  - (ヘ) その他(自由加入制の意見等)

当時高1についてみると、全くクラブに加入していないものが約10%あり、加入者の運動系、文化系の比率は、28%と72%であった。その後、数回の議会で1人1クラブ制の徹底、2年後期までの活動、3年生についても、1学期までは活動者を強くひきとめよ、といった方向で討論が重ねられた。

(2) 第2段階

その後、生徒議会での検討資料をもとに生徒会執行部と生徒(指導)部の間で話し合いがもたれたが、最終的には、本年2月、生徒会執行部は「クラブ問題に関する解決案」として、次の4点を申し入れてきた。

- イ 全入制の適用時期と対象学年について、
  - 適用時期……38年度より
  - 対象学年……高1, 高2 (高3は自由参加)
- ロ 幽霊部員の防止
  - クラブ日誌をつけ、顧問の点検をうける。
  - クラブ内部の活動を充実させる。(文化系クラブの発表の機会をふやす。体育系クラブの試合結果の発表、クラブの統制強化)
  - 顧問教官の出席要請(特に文化系クラブへの教官の出席が悪いので、この点に重点をおく)

一 般 研 究

ハ 1人1クラブ制の実施

ニ 文化系クラブの統合 文化系クラブでは、10人

以下の少人数でも活動できるようにクラブを3〜4に大別し、実質は班別の少数精鋭主義でいく。

理科クラブ→(物理, 化学, 生物, 地学)

文科クラブ→(英語, 郷土誌)

芸術クラブ→(放送, 演劇, ブラスバンド)

芸能クラブ→(美術, 写真, 手芸)

以上の申し入れにもとづいて、教官会議はほぼ全面的に生徒会執行部案を認め、本年4月から、高1, 高2についての全入制を実施することとした。

(3) 本年度

以上にもとづいて、4月中旬、生徒集会をもち、指導部よりクラブ活動の説明と顧問教官の発表を行い、主として高1を対象に各クラブ長(生徒)からそれぞれのクラブの内容説明が行われた。以後、4月一っばいをクラブ加入者調整期間として、5月より全面実施の運びとなった。この間教官会議において、クラブ指導の問題が話し合われたが、一応次のような申し合わせを行った。

イ 顧問教官の出席は最低週一回程度の指導を行うこと。

ロ クラブ活動状況について評価を行うこと。(出席, 技能, 態度について、三段階程度の評価を行い、学期末の通知表にも記載する)

ハ クラブ相互の情報交換, 連絡を密にすること。

所で、運動系クラブについては、夏休みに金大付高との定期交歓競技会が行われるので、例年これを目標に各クラブ共熱心な活動がみられる。一方、生徒会からも申し入れのあった文化系クラブ振興の一つとして、一学期末, 期末テスト終了後に小文化祭を行うこととし、文化系クラブの発表の機会をふやすこととなった。(クラブ活動関係の主な事項は別表Iを参照)

(4) クラブ調査の結果から

先づ、38年6月1日現在のクラブ加入者を昨年9月26日現在のそれと比較すると次の表の通りである。

ク ラ ブ 加 入 者 比 較

(表6)

(37・9・26)

(38・6・1)

		高 1 (108)		高 2 (98)		計	高 1 (105)		高 2 (108)		高1・2 計	高 3 男/女	
		男	女	男	女		男	女	男	女			
運 動 系	テニ	6	5	5	2	18	8	4	7	6	25		
	サッカー	6	0	8	0	14	8	0	12	0	20		
	卓球	10	4	10	0	18	8	6	10	2	26		
	バドミントン	1	9	5	1	16	5	5	3	9	22	2/2	
	バスケット	8	5	2	0	15	7	6	4	5	22	1/0	
	バレー	11	6	2	6	25	5	5	8	5	23	0/1	
文 化 系	文 科	郷土誌				0	6	0	0	0	6		
		文芸語				0					(中学のみ)		
	理 科	英 語					0	0	4	1	0	5	
		物 理	3	0	1	0	4	0	0	6	0	6	
		生 物	2	0	2	1	5	3	0	1	0	4	
		化 学	8	0	1	0	9	8	7	3	0	18	1/0
	芸 術	地 学	4	1	0	0	5	0	0	3	0	3	
		美 術	0	3	2	5	10	0	4	0	5	9	0/1
		ブラスバンド	2	0	1	0	3	0	0	3	0	3	
		写 真	2	3	2	0	7	2	1	0	4	7	
芸 能	演 劇	0	4	2	2	8	1	0	1	3	5		
	手 芸					0	0	2	0	3	5		
	放 送					0					(中学のみ)		
	計	63	40	37	17		61	44	62	43			
	総 計	103		54		157	105		105		210		

(兼新聞 3) (213)

この結果、特に高2の加入者がふえ、約2倍の増となり、運動系クラブについては各クラブ20人前後でバランスがとれている。しかし、運動系と文化系クラブの比率は65.8%と34.2%で前年と大差なく、文化系各クラブは学年、学級によって、アンバランスが大きく、クラブ活動の持続性に問題をはらんでいる。

次に7月1日のクラブ活動調査を行った。

この中で特に「1人1クラブ、全員加入制（高3のみ自由参加）」について、高1、2年の問題をひもってみよう。

この場合特に高1に、(1)「大変困っている」というのが8名、(2)「困ることもあるが、何とかやっている」が49名あり、高1全体の約半数を占めているのが注目される。

(1)、(2)の主な内容を高1、高2について比較すると、次のようになる。

(表7)

(困る理由)	高1	高2
ア 入るクラブがない。 (好きなクラブがない)	8	6
イ クラブと勉強の両立	6	4
ウ 運動系と文化系の両方をやりたい	5	3
エ きびしすぎる	4	0
オ 先輩がいない	2	0
カ 体がもたない	2	2
キ 予算が少ない。	2	5
その他(理由無記を含む)	28	11
	57	31

(ア)については、野球部やハンドボール等への希望があるが、現在設置されていないことへの不満、(イ)については、クラブによって週6日5日の練習があり、苦しいことをうたっている。(ウ)については1人1クラブ制に対する一つの問題点を提起しているといえよう。

先に(5月以降)特に困っている生徒に対してはクラブの変更を認め、高2について2名、高1については4名(サッカーから卓球へ2名、郷土誌へ1名、バレーボールから写真へ1名)の移動を認めた。逆に文化系から運動部への積極的引き抜きが行われ、特に高1女子の手芸クラブからバドミントンへ3名の移動があった。

所で全体として、クラブ活動状況を7月4日の調査と10月17日の調査を比較すると次の表の通りになる。

(表8)

	7・4			10・17		
	高1	高2	計	高1	高2	計
イ 積極的に活動している	32	35	67	35	21	56
ロ かなりよく活動している	49	48	97	50	37	87
ハ 時々さぼるが普通に活動している	20	18	38	16	29	45
ニ 入部は形式的でほとんど活動していない	2	2	4	2	6	8
ホ 入部せず、全く活動していない	0	0	0	0	2	2

高1については、イ、ロがややふえているが、高2はやや低下し、2年生後半のクラブ活動指導上の問題を暗示している。しかし、全体として、ニ、ホは5%以下であり、一応形の上では全入制クラブ活動の成果は高く評価されよう。

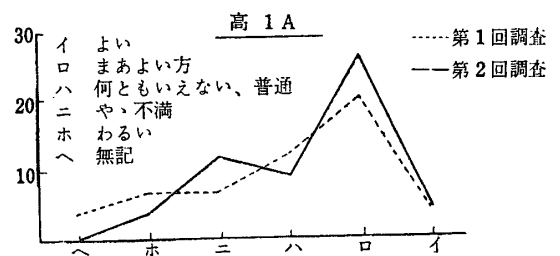
#### V おわりに

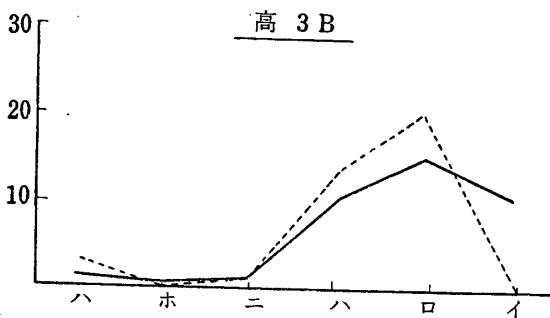
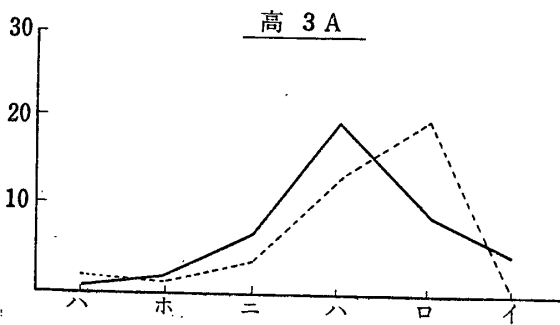
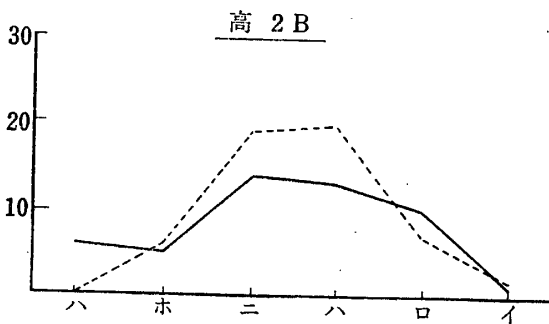
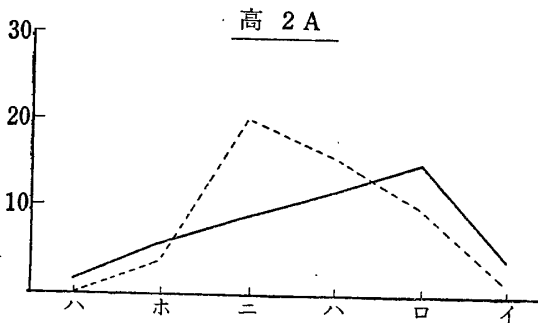
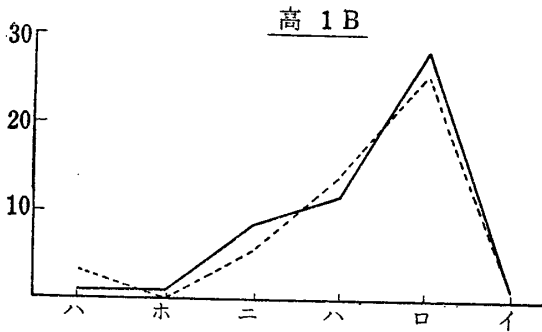
9月以降、一学期の反省をもとに指導部の話し合いを通じて、次の諸点に指導の重点をおいた。

- (1) 高1、高3については、当初の目標を確認して、さらに努力する。
- (2) 高2については、一学期の反省からL・Tホーム・ルームの計画的指導、クラスのまとまり、学習意欲の向上を強調する。
- (3) 全体として、二学期は特に行事が多いが、この行事を通して、クラスのまとまりや、雰囲気を高めてゆく。

10月17日の第2回校風調査の結果について、第1回調査(7月4日)とクラス別にグラフ化して比較すると次の様になる。

「クラスのまとまり、雰囲気について」





この結果、高1については、前回とほとんど差がなく、高2 Aがやや評価が上昇し、高3についてはA組が下降、B組が上昇という傾向がみられる。高3の場合、この調査が体育祭の後に行われ、B組は優勝、A組は最下位の成績であったということが影響していると思われる。それにしても、昨年に較べて高3としてのクラスのまとまりはよくなっているといえる。

さらに高1、高3について、当初の目標（高1——1. まとまりのある学級 2. 学習へのねばり、3. クラブ活動への積極的参加 4. L・Tホームルームの計画化とグループ活動。高3——1. 孤立と分裂をさけて、まとまりのある学級 2. 受験の重圧に耐えて、目標への頑張り、3. 協力とよい意味の競争、4. 集団の規律とけじめ）について、生徒の自己評価を求めた。

高1については、1、3、4はかなりの成果を認められるが、2. に示されているように「学習へのねばり」については低い評価となっており、今後、学習面での指導を通じて、級風、校風向上への努力が必要と考えられ、同時にこれが最も重要な問題でもあろう。

以上、これまでのホーム・ルーム指導、クラブ活動の指導は、学校ムード改善過程の一環として、ある意味ではつかまえ所のない漠然とした問題でとり立てて研究といえる程のものではない。しかしささやかな実践としてその反省を二、三問題点として最後にあげておきたい。

1. 今後、ホーム・ルームの指導については、特にL・Tホーム・ルームの指導をいっそう強化し、指導の計画化をさらに各学年にわたる一貫した指導計画（カリキュラム）を設定することの必要。
2. 今まで本校では高1が問題の学年と考えてきたが、年度によってその学年の性格ともいべきものがあり、固定して考えることはできない。さらに高2の場合、生徒会活動や、クラブ活動に主力を置くと、反面、学級活動や、L・Tホーム・ルームに新しい問題がでてくる。
3. クラブ活動においては——特に文化系クラブの場合、各学年にわたって、人数がそろわない。予算が少ない。さらに全入制を指導する場合、教師が方向を与えないと仲々発展しない等の問題がある。この点に教科と違った生徒の自発的活動指導への困難点が残されているといえる。

さらに高3に対しても、少なくとも1学期末まではクラブ活動全入をすすめるべきだという意見（教官、生徒会執行部）もあるが、受験勉強の問題とからんで高3の生徒としては抵抗の多い非常に困難な問題であると言わざるを得ないであろう。

（高森 充 記）